

鹿児島県鹿児島市方言の立ち上げ詞

木部 暢子

I. はじめに

- 1、調査対象地：鹿児島市は鹿児島県の県庁所在地である。県南部、鹿児島湾（錦江湾）に面したところにあり、湾をはさんで桜島を正面にのぞむ。人口は約 600,000 人（2004 年度現在）で、県の人口の三分の一が鹿児島市に集中している。鹿児島市は江戸時代から薩摩藩の城下町として、地域の中心的位置を占めてきた。1977 年に旧谷山市と合併し、2004 年には桜島町、喜入町、吉田町、郡山町、松元町の 5 町と合併した。
- 2、調査年月日：2005 年 11 月 16 日 午後 6 時 50 分から午後 9 時 30 分まで。
2005 年 12 月 14 日 午後 7 時 50 分から午後 9 時 00 分まで。
- 3、話者：入佐一俊（男、昭和 9 年生）、片野田勇（男、昭和 12 年生）、海江田和子（女、昭和 2 年生）、池田フサ子（女、昭和 10 年生）、前田美枝子（女、昭和 23 年生）、向園松代（女、昭和 36 年生）
- 4、調査者・調査場所：木部暢子・カレーテリヤ沙羅
- 5、調査方法：統一調査による質問調査
- 6、その他：①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。
②アクセント句ごとに分かち書きを行なった。
③話者のコメント、調査者の気づきはく>内容に記した。
④話者は全部で 6 名（男性 2 名、女性 2 名）である。男性と女性で表現が異なる場合は、く>に注記をした。特に違いがない場合は注記をしていない。なお、入佐氏の出身は宮崎県小林市だが、氏は鹿児島市での生活が長く、他の話者との間に大きな差は無かった。

II. 調査記録

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドッ^一コラ ショ。イッ^一下ッ^一 ヨダ^一 ガ。よっこらしょ。一時休もう。〈女性はアイタ^一百^一。という〉

(2) どうれ。出かけることにしよう。

○下^一ラ イカン^一テラ。どら。出かけなければ。

(3) よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○ハア、ア^一イタ。ヤマン^一 チョッペン^一三^一 チダ。はあ、疲れたよ。山の天辺に着いた。

〈女性はヨをつけて、アーイタ ヨという。上る途中ならヨイシヨと言うが、天辺に着いたときはこのように言う〉

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○ハラ。アツネ コテ ヒツチャユツ 下コイ ジャツタ。あら。もうちょっとで落ちるところだった。〈「しまった」に対してはチヨッ シモタという表現があるが、チヨッ シモタは落ちてしまった時のことばである。落ちそうな時はハラの方がよい。〉

(5) くわばらくわばら。恐ろしかった！

○アー。オトロヒカッタ。はあ。恐ろしかった。〈「くわばら」に当たることばがない。もし言うとするば、ナンマンダブツか。〉

(6) しめた！ 今度の魚は大きいぞ。

○ヨカッタ。コンド下 イオウ フト下 ド。今度の魚は大きいよ。〈「しめた」に当たる適当なことばがない。この文脈だとヨカッタか。〉

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○コヤ トッコユツシカ ナ下。飛び越えるしかない。〈「ままよ」に当たる適当なことばがない。子供の遊びで、高いところから飛び降りたり、溝を飛び越えたりする時に唱えることばとして、チコカイ 下ボカイ ナコヨカ ヒ下ベというのがある。〉

(8) なにくそ！ 負けてなるものか。

○ヨオシ。マクイ モン カ。よおし。負けるものか。〈ヨオジでもナイヨでもよいが、自分に言い聞かせるならばヨオシの方がよい。ナイヨを使うと他人と競う意味が強くなる。〉

(9) しめしめ！ 誰も気がついていない。

○コラ ヨカッタ。ダイモ キガ チチョラン。これはよかった。誰も気がついていない。〈「しめしめ」に当たる適当なことばがない。強いていえばコラ ヨカッタ か。女性はアラアラ ヨカッタという。ヨカ アンベ ジャ (いい按配だ) という表現もあるが、泥棒にしてはのんびりしすぎている。〉

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○エーッ。イツチャン オモシ下 ナ下。ええっ。少しも面白くない。〈「ちえっ」に当たる適当なことばがない。〉

(11) ちくしょう！ 仕返しをしてやる。

○チイヨ。イモドショ スッ ド。なんだよ。仕返しをするぞ。〈イモドシは「^{よい}結戻し」で、「お返し」の意味。〉

(12) くそっ！ 覚えている！

○チイヨ。オボエチョレ ヨ！ なんだよ。覚えているよ。

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○コラコラ イデン シタ ト。あらあら どうしたの。〈コラコラは男性が使う。女性

はアラヨアラヨ。>

(14) えへん、えへん、吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○ヘン、ヘン。オヤ ココヘンデ イッパン ツエ タッ 下。えへん、えへん。俺はこの辺りで一番強いのだよ。<ヘン、ヘンまたはエン、エンでもよい。「力持ち」はツエでよい。チカラガ ツエは説明的過ぎる感じがする。>

(15) はてな、ここはどこだろう？

○コラ。ココラ ドコ テー。これは、ここはどこか。◇

○ソダ。ココラ ドコ テー。<女性。ソダまたはソダモー、ソダモシターン。ソダモシターンは「ソダ（私は）モー（もう）シターン（知らない）」から派生した感動詞で、女性語。強いて訳せば「あらまあ、どうしましょう」だが、用法が広く、感動を表す時に広く使われる。>

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハア。ワカイモシタ。はい、分かりました。

(17) はい。宜しゅうございます。

○ハア。ヨシュゴワス。はい、宜しゅうございます。

(18) ええ、ここに居ます。

○ハ一。コテ オイモス。はい、ここに居ります。<目上の人に対して言う時。>

○ヨ一。コテ オッド。ええ、ここに居ます。<目下・同等の人に対して言う時。>

(19) んだ。私の傘です。

○ハ一。コンタ アタイガ カザ ゴザス。はい、これは私の傘です。<目上の人に対して言う時。>

○ハ一。コンタ オイガ カザ オ<目下・同等の人に対して言う時>

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ジャッ ド。オマンサアガ ヨヤッ 下オイ ゴザス。そうですよ。あなたのおしゃる通りです。<目上の人に対して言う時。>

○ジャッ ド。ハンガ ヨ 下オイ。そうだよ。あなたが言う通り。<目下・同等の人に対して言う時。>

(21) はいきた。おやすいご用です。

○コラ キタ。モヤシ コッ ジャ。ほらきた。簡単な事だ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ヨオシ。シモツ。よおし。やりましょう。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨカフ ガ。ウケノモツ。いいですよ。引き受けましょう。<ウケノモツはウケモン

ガでもよい。>

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○ヨカ^ン ガ。イッショ^キ イツモン ガ。いいですよ。一緒に行きましょう。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○ヘノコッパ。モヤシ コッ ジャ。へのかっぱ。簡単な事だ。

(26)いえいえ、とんでもございません。

○イ^ヤイ^ヤ、カカラン^ネ コッ ゴザス。いえ、とんでもないことでございます。〈カカラン^ネ コッは「係りのないこと」が原義。〉

(27)なんの、たいしたことでございません。

○ナイモ、ソゲン イヤイ^ヨナ コッジャ ゴア^ハン。なにも、そんなに言う程のことじゃございません。

(28)なあに、擦り傷（すりきず）ぐらい、すぐ治るさ。

○チアイ、ソヒコ^ン スイキヒド^マ イッキ ナオッ タッ ガ。なあに、それぐらいの擦り傷など、すぐ治るのだよ。

(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○チアイヨ、ワガ ヨカコッパ^カイ ヌテ。なによ。自分の都合のいいことばかり言って。

(30)いやはや、とんだ目に遭（あ）いました。

○アイヤ、コラ、フテ メ オ^タ。あら、これは、大変な目に遭った。

(31)へん、勝手にしやがれ。

○ホー、スゴ^タッゴッ モンカ。自分がしたいようにしろ。〈「へん」に当たる適当なことばがない。強いて言えばホーか。スゴ^タッゴは「スルゴトアルゴト」の変化形。スゴアイゴッでもよい。〉

(32)なめるんじゃねえよ。こいつ！

○ケナブン^チ ヨ。コ^ン ワ^ロ ガ。なめるなよ。こいつ。〈コ^ン ワ^ロ ガは男性のことば。女性はコ^ン ヤチャという。〉

(33)冗談じゃない。口から出任せを言って！

○ワヤク ヌナ。ユゴ^タイゴッ ヌテ。冗談を言うな。自分の言いたい放題言って。〈ユゴ^タイゴは「ユウゴトアルゴト」の変化形。ユゴアッゴでもよい。〉

(34)だまらっしゃい。出鱈目（でたらめ）ばかり言って！

○ダマレ。ウソ^バッカイ ヒッテ。だまれ。うそばかり言って。

(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソゲン オモ^ゴッ イッカ。ダマ^ッチョヤ ナラン。そう（お前が）思うようにいく

か。黙ってられない。く「そうは問屋がおろさねえ」は適当な表現がない。強いて訳せばこのようになる。>

(36) うそもへちまもありやしねえ。我慢(がまん)できねえ。

○ウソバツカイ ヌナ。コラエガ ナラン ド。うそばかり言うな。我慢ができない。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○トバゴツ ヌナ。コン ワロ ガ。とぼけたこと言うな。このやろう。くトバゴツは「とぼけたこと」の意味。意識するとこのようになる。直訳すると、ネゴチャ ケネツカラ ヌエ。>

(38) あたりきしやりきのけつあな。当たり前だ!

○アタイマエ ヨ。当たり前よ。くこれに該当するきまり文句はない。>

(39) きみょうきてれつだ。それは変だ。

○ミヨーナ コツ。ソヤ シュダ コツ ジャ。妙なことだ。変なことだ。

(40) ほほう。それは親孝行なお子さんですね。

○ホー。ソヤ ヨガ オコサン ジャヒ ナ。ほお。それは良いお子さんですね。く「親孝行なお子さん」は直訳すれば、ココチ オコサンだが、ヨガ オコサンでよい。>

(41) まいったまいった。しかたがない。

○コーラ ノサン。シカタガ ネ。これはたまらない。しかたがない。

Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○コラコラ、スンモハン。ヤツバワ ドコ ゴザヒ ガ。これこれ、すみません。役場はどこですか。く「コラコラ」は呼びかけ語。叱っている意味はない。>

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄りください。

○コラコラ、タツノ ヒト。ヨッ イツキヤハン カ。これこれ、旅の人。立ち寄って行きませんか。

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○ホラ、ミヤンセ。ムケ コエンガ アイモン ガ。ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?

○オイオイ。コゲン アサ ハヨカラ ドケ イツ ト カ。おいおい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ。

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい?

○オー、キョテ。コイガア ナユ スツ ツモイ ヨ。よう、兄弟。これから何をするつもりか。

(47) いざ、さらば。

○ホイナラ、マタ ナ。さらば、またね。

(48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○サアサア、イエンリョ センジ アガッタモンセ。さあさあ、遠慮をせずに、召し上がって下さい。

(49) さて、そろそろ一服しませんか。

○下ラ、ヒトヨク シモツ ヤ。どれ、一休みしましょうよ。

○下ラ、イットツ ヨクモツ ヤ。どれ、ひととき休みましょうよ。

(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○コラコラ、イットツ オトナシュ モン カ。これこれ、ちょっとおとなしくしなさい。

(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オイ、コラ。ヌシトオ スツ ト イカン ド。おい、こら。盗人をしてはいけないよ。

(52) おどりゃあ。いい加減にしないか！

○ワイ下マ コラ。エカゲン三 モン カ。おまえたち、こら。いい加減にしないか！

(53) おのれ、裏切りやがったな。

○ストワロ。ネガエッタ 子。こいつ、裏切ったな。〈ストワロ、またはスツサロ〉

(54) どっこい。その手には乗らない。

○ンニヤ。ソク ク子ニヤ フラン。いいや。その口には乗らない。〈「どっこい」に当たる適当なことばがない。この場面では、ンニヤと言うか。「その手に乗らない」ではなく「その口に乗らない」という。〉

(55) どうだ、参ったか？

○コラ マイッタ カ。もう参ったか。〈「どうだ」に当たる適当なことばがない。〉

(56) せいの、よいしょ！

○セーノ、ヨイショ。せいの、よいしょ！

(57) ようい、どん！

○ヨーイ、ドン。ようい、どん！〈「どん」ではなくトンという。〉

(58) いっせいの、で！

○セーノ。せえの。

(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！

○ヨッコイショ、ヨッコイショ。モ ヒトキバイ ジャ。よいしょ、よいしょ、もうひと頑張りだ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ヨイサ、ヨイサ。モ ヒトキバイ ジャ。よいしょ。もうひと頑張りだ。〈地引き綱をみんなで引くようなときのかけ声。〉

(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ヨイショ、ヨイショ。マツイ ジャ、ヨイショ。〈鹿児島市では御輿を作らなかった。強いて言うとするれば、ヨイショ、ヨイショか。〉

(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！ あいこでしょ。

○ジャンケン 宀シ。アイゴデ 宀シ。じゃんけん、ぼん！ あいこでしょ！〈ジャンケン 宀シとも言う。「はじめはぐう」というかけ声は新しい言い方。昔はそんな風には言わなかった。〉

(63) きをつけえ、まえへならえ、なおい。

○キオツテ、マエエ ナラエ。ナオレ。〈学校で使うことばなので、共通語と同じ。〉

(64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ、レイ、チャッセツ。

(65) ばんざい、ばんざい。やった、やった！

○オーツ ヤッタ、ヤッタ。やった、やった！〈「ばんざい」に当たることばがない。〉

(66) えいえいおう。頑張るぞ。

○チエストイテ。キバツ ド。さあ行け。頑張るぞ。

(67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○ソラ。オメデ下 ゴラス。〈「かんぱい」「おめでとう」に当たる適当なことばがない。強いて言えば、このようになる。〉

(68) やっほう、やっほう。

○〈山に登って「やっほう」とは言わない。普通は山仕事のために山に登る。〉

(69) ふれえ、ふれえ、白組。

○キバレ、シログン。頑張れ。白組。〈最近はフレ、フレと言う。〉

(70) おにはそと、ふくはうち。

○〈戦前は何か言っていたが、戦時中、豆まきが中止になったので、はっきりとは覚えていない。最近では共通語と同じ、オニ下 ソ下、フク下 ウ下、オン下 ソ下 フ下 ウ下という。また、アクマ下 クン下。フク下 ワガヤセエ テ (悪魔は来るな。福は我が家へ来い) という人もいる。〉

(71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○バカモン ガ。テンコツモ 丩 コ ジャ。ばかもの。とんでも無い子だ。〈バカスタ下 丩。バカスタ下 丩とも言う。〉

(72) それみたことか、わんぱく坊主。

○アラ ミレ、キカ^ンタ^ロ ガ。それみろ。きかん坊が。

(73) ざまあみろ。いい気味だ。

○ザマ ミレ。ヨカ アン^ベ ジャ。ざまあみろ。いい按配だ。

(74) ちくしょうめ。ひどいことを言いやがる。

○チク^ショー。ヒデ コツ ^ユ ガ。ちくしょう。ひどいことを言う、まあ。

(75) このやろう。どうしてくれようか。

○コン ワ^ロ ガ。下^{ゲン} スツ ^カ。このやろう。どうしようか。〈「このやろう」はストワ^ロともいう(53参照)が、ここのように鳥に向かっていう時は、コン ワ^ロの方がよい。〉

(76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○コン バ^カ ヲ、ワヤ^ク キヒカエス^テ。ばかが。冗談をいうな。

(77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○バカタ^レ、テゲ^テ コツ ^ユナ。ばかたれ。いい加減(大概)なことを言うな。〈バカ^{モン}でもよい。〉

(78) あなかま、静かにしなさい。

○コラ、ヤゼ^ロシ^カ。ダマ^ツチ^ョレ。これ、やかましい。黙っている。〈「やかましい」はセカラシ^カとも言う。〉

(79) しいいっ、静かにして!

○シッ、シ^ント シ^ヤイ。しいいっ、静かにしなさい。

(80) ちちんぷぶい、蛙、蛙、生き返れ。

○〈該当することばがない。〉

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○ア^カ ^ベー。オン^{サン} ^コツチ。あっかんべい、鬼さん、こっち。

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ホ^ー、タイシ^タ ^{モン} ジャ。ほう。たいしたものだ。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ヤ^ッター、ニホ^ンイ^チ。見事だ。日本一。〈^ユ ヤ^ッタ、^ユ デケ^タとも言うが、かぼちゃの品評会のような、対象が人間でない場合は、^ユ ヤ^ッタ、デカシ^タとは言わない。そのときは、ミゴ^ツカか。〉

(84) しっけい! すみません。

○ハ^ラ スンモ^{ハン}。あら、すみません。

(85)あばよ、達者でな。

○ソイテラ。ゲンキデ ア。さようなら。元気でね。〈短い別れにはメニッ ゴワンソ
（明日でございましょう）、長い別れには、マタ ゴワンソ（またいつかでございまし
ょう）という。〉

（きべ のぶこ 鹿児島大学）